

令和6年度

海陽町立穴喰中学校

「学力向上実行プラン」

学校の教育目標を踏まえた学力向上の重点目標

- ①基礎的・基本的な知識・技能の確実な習得及び活用の力の向上を図る。
- ②個・集団に応じた指導方法を工夫し、学力向上をめざし、授業改善を行う。
- ③読書環境を整え、本を活用できるよう手助けし、単語力・読解力を高める。
- ④家庭と連携して、自主的・計画的な家庭学習の習慣を定着させる。

学力向上検討委員会構成

- |                                       |  |
|---------------------------------------|--|
| <b>学力向上推進員</b><br>教諭：小泉小百合<br>(2学年主任) | <b>委員</b><br>教務主任：山本 耕治 3学年主任：芝本 和史<br>1学年主任：田上 陽子<br>特別支援教育コーディネーター：中口 尚美 |
|---------------------------------------|--|

校長

久保 善信

◎次の(1)～(3)をバランスよく取り組み、学力の向上を推進

【各校の取組状況の把握について】

管理職による授業参観や、学期に1回ふれあい授業参観を実施するなど、様々な機会を捉え、取組状況の把握を行う。

(1)知識・技能の習得

児童生徒の状況(○よさ・●課題)	具体的目標(めざす子供の姿)	具体的方策(教員の取組)	中間期の見直し	達成状況(評価)	次年度における改善事項
○基礎的・基本的な課題に、生徒1人1人が自分のペースで取り組むことができる。 ●繰り返し学習や、暗記を苦手とし、基礎的・基本的な知識の習得が十分でない生徒が見受けられる。	・生活記録、課題学習等をする、授業中のノートをしっかり書くことで、継続的な取組及び基礎的・基本的な知識・技能を身につけることができる。 ・課題学習 1年キュビナとセミナー 2年セミナー 3年理科と社会の一問一答	①個に応じた授業形態や、ICTを活用した指導方法の工夫・改善を図り、分かり易い授業を展開する。 ②家庭学習につながる宿題の質と量、及び提示の仕方を研究し、実践する。 ③メディアコントロールを意識させ、調査の機会を設定する。	・各教科の課題の量や質は、生徒の個に対応し、より理解を深めることができている。 ・家庭と協力するなど、メディアコントロールをテスト期間中等に継続して意識させる。	①学校評価アンケートで「授業は楽しくわかりやすい」の肯定的回答は、95%であった。前年度と同様の数値であるが習熟度の授業形態によりわかりやすい授業の展開ができています。 ②「家庭学習に意欲的に取り組んでいる」の否定的回答が47%であった。	・生徒の実態に応じて、わかりやすい授業が展開されるよう、各教員の創意工夫が求められる。 ・家庭学習の定着と意義指導のためメディアコントロールにつながる調査を継続する。

(2)思考力・判断力・表現力等の育成

児童生徒の状況(○よさ・●課題)	具体的目標(目指す子供の姿)	具体的方策(教員の取組)	中間期の見直し	達成状況(評価)	次年度における改善事項
○学習活動の発表や学校行事など表現の場において、自分たちで意見を出し合い、積極的に取り組む。 ●授業や各活動に対する集中力や理解力に格差が見られる。TPOに応じた適切な表現が難しい生徒がいる。	・話をしっかりと聴くことができ、自分の意見や考えを整理し、TPOに応じた伝え方を考え、相手に分かり易く発表及び説明をすることができる。	①班やペア活動などを通して、自分の意見を整理したり、意見交換をしたりして、学びを共有する機会を増やす。 ②授業や学校行事の中で、発言・発表できる場を設定し、TPOに応じた表現の仕方を学ばせるとともに、聴く態度を育てる。	・班やペア活動は意欲的に取り組み、生徒間の意見交換の機会も増えている。 ・異年齢集団や地域社会に対して発信できる表現力をつけさせる。	①学習内容の整理にタブレットを活用するなど、さまざまな機会に学びを共有することができた。 ②授業や学校行事の中でよりわかりやすい表現や伝え方を工夫し、積極的に質疑応答を行うことができた。	・行事等で異年齢集団と意見を共有する場面を通して、自分なりの考えや意見を深めることができた。さらに、ふり返りや問題提起につながるよう指導方法や活動を工夫したい。

(3)主体的に学習に取り組む態度の育成

児童生徒の状況(○よさ・●課題)	具体的目標(目指す子供の姿)	具体的方策(教員の取組)	中間期の見直し	達成状況(評価)	次年度における改善事項
○真面目な態度で授業に取り組める。宿題や課題については、多くの生徒が真面目に取り組む。 ●宿題や与えられた課題のみの取組で満足してしまう生徒が多く、日常的には、家庭での学習は不十分である。	・将来の夢や目標を持ち、その達成に向けて、根気強く自ら学び続けることができる。 ・「なぜ学ぶのか」今の学習が将来どのように役立つのかということの発見で日頃の学習の改善に繋げることができる。	①より良い取組が望む結果につながるように、学習計画を作成・実践し、その結果を受けて見直すサイクルを確立させる。 ②家庭や地域と連携し、キャリア教育の充実を図ることで、学ぶ意欲の向上を図る。	・授業の最初に既習事項の確認を行い、生徒の意識を高める。 ・進路を見据えて取り組めるように、高校や就労など具体的な内容を扱い、学習の意義を見いださせる。	①学校評価アンケートで「教職員は一人一人の生徒に応じた学習指導をしている」の肯定的回答は94%であった。 ②キャリア教育の充実を図ることで、学ぶ意欲の向上につながっている。	・学力が二極化する生徒の対応について、家庭や地域と連携をはかりながら、学習計画を立て、改善できる力をつけさせたい。 ・将来を見据えた展望ができる方策につなげたい。

令和6年度 学力向上ロードマップ

